

**第3回 町田市スポーツ推進審議会
議事要旨**

日 時 2018年9月27日(木) 18:30~20:30

場 所 町田市役所2階 2-2会議室

出席者

川崎 登志喜	委員(会長)	玉川大学教育学部 教授
宮崎 光次	委員	桜美林大学健康福祉学群長教授
永吉 英記	委員(職務代理)	国士舘大学体育学部准教授
山本 正実	委員	一般財団法人 町田市体育協会 理事長
岡田 栄	委員	町田市スポーツ推進委員
水野 洋子	委員	NPO 法人スポーツ塾 J. VIC 代表
佐藤 正志	委員	町田商工会議所 専務理事
北川 達三	委員	社会福祉法人賛育会第二清風園 施設長
坂井 早苗	委員	市民委員
三村 徹	委員	市民委員

欠席者

大川 武司	委員	南中学校校長
-------	----	--------

事務局

文化スポーツ振興部長	能條 敏明
文化スポーツ振興部スポーツ振興課長	石田 一太郎
文化スポーツ振興部スポーツ振興課担当課長	渋谷 晴久
文化スポーツ振興部スポーツ振興課担当課長	伊奈 誠
文化スポーツ振興部スポーツ振興課担当係長	清水 明
文化スポーツ振興部スポーツ振興課担当係長	喜多 和則
文化スポーツ振興部スポーツ振興課担当係長	鈴木 朝子
文化スポーツ振興部スポーツ振興課主任	菅原 浩
文化スポーツ振興部スポーツ振興課主事	阿部 正宏
文化スポーツ振興部スポーツ振興課主事	佐藤 理子

傍聴者 なし

議事

1. 開会
2. 議事
 - (1) 基本目標3 スポーツ環境の充実について
 - (2) 基本目標4 スポーツを通じたまちづくりについて
3. 事務局から
4. 閉会

配布資料

- ・資料1 町田市スポーツ推進計画 基本目標3 スポーツ環境の充実
基本目標4 スポーツを通じたまちづくり
- ・資料2 町田市全域 施設配置図
- ・資料3 鶴川地域 施設配置図

議事要旨

1. 開会

事務局からあいさつが行われた。

2. 議事

(1) 基本目標3 スポーツ環境の充実について

事務局が資料1について説明を行った。

川崎会長 「する」スポーツ環境の充実、「みる」スポーツ環境の充実について検討していくこととする。

水野委員 地域スポーツクラブで「まちとも」の子どもたちの参加について相談を受けた。事業への無料参加となるとクラブの運営面から実施が難しいが、簡易的な陸上教室の開催など、「まちとも」との連携は、実施に向けて検討を進めていけるとよいと考えている。

川崎会長 それは1つの小学校だけでなく、他校へ展開していくことも可能なのか。

水野委員 可能だと思う。放課後の開放時間にクラブや地域の特性に合わせて、別の種目で実施していくことが可能だと思う。

山本委員 事務局説明にあったスポーツ広場は、市として今後どうしていく予定なのか。また、広場の運営方法についても考えはあるのか。

事務局 具体的にどのように整備していくかは決まっていない。また、なんらかの制約がある土地に立地している場所もある。現在はこういった条件を整理してどのように整備していくかを検討しようとしている段階である。広場の運営方法についても、今後検討していく予定である。

川崎会長 新しくオープンするスポーツ広場があるとのことだが、今はどのような状況なのか。

事務局 緑ヶ丘グラウンドが11月にオープンする予定である。施設の指定管理者の一員に地域スポーツクラブが入り、ソフト事業を担うことが想定されている。オープン後は地域の

子どもたちを対象にした少年サッカー、少年野球の教室や近隣にお住まいの高齢者や主婦の方を対象としたウォーキング教室等を実施する方向で調整が進んでいる。

川崎会長 体育館はないのか。

事務局 グラウンド1面となっている。

北川委員 高齢者を対象とした「まちトレ」という介護予防の取組があり、定期的に各自治会、町内会単位で実施している。こうした取組も次期計画の中でスポーツとして捉えられるとよいと考えている。「まちトレ」は高齢者福祉課が担当し、理学療法士の先生方が体操メニューを考案しDVD等の動画にしている。

川崎会長 計画の中での位置づけを検討していけるとよい。

岡田委員 「まちとも」は、地域スポーツクラブだけでなく介護団体とも連携の方策を検討していけるとよい。

別の話題となるが、スポーツ庁や国の第2期スポーツ基本計画の認知度が低い実情を知った。国ではスポーツ審議会健康スポーツ部会が設置され、健康の視点からスポーツについて議論が進められている。国の流れとの整合を図り、スポーツ実施率向上の取組を推進していくことが重要ではないか。

三村委員 地域で行われているスポーツの取組も、施設の周辺住民には知られていないことがあると思う。情報を周知して、施設周辺の地域を巻き込んでスポーツを通して活性化していくという視点が重要ではないか。

坂井委員 「指標となる考え方」の「子どもの遊ぶ環境が悪くなった」という回答を減らすということを見ると、子どもが安心して遊べる環境を整備していくことが重要だと考えている。「まちとも」と連携して学校がスポーツの場となれば、子どもは一人でも安心してスポーツを実施できる。

情報発信について考えると、対象年齢やいつどこでどんな取組があるのか、費用や申し込みの方法はどうなっているかということが一目でわかる、カレンダーのようなものが身近にあるとよいのではないか。

佐藤委員 施設が開放されているということだけでなく、もう少し詳細な情報がないと、気軽に足を運ぶことは少し難しいかもしれない。特に子どもが安心してスポーツができる環境となると、指導者やリーダーがいることが重要ではないか。

スポーツ推進委員の数も多くはないということで、この状況をふまえると、増員することも検討していく必要があるのではないか。

民間事業者との連携という視点では、健康経営の一環で施設の開放等協力を仰いでいくことも重要である。

永吉委員 案にあるスポーツ施設のマップは、市の自然環境や人口動態等をふまえて施設を整備していくためのものにもなるだろう。施設の整備にあたっては、できるだけ多くの市民が様々な施設を使うことを考えていくことになると思うが、それはとても重要なことだと考えている。

「まちとも」との連携については放課後の子どもの遊び場ということで、学校と様々な点で連携を強化していくことになると思う。また、大学や民間事業者との連携については、人脈やネットワークを効果的に活用していけるとよい。

町内会自治会との連携については、身近なスポーツ環境として公園利用が出てくると思

う。公園管理課とスポーツ振興課で連携して環境の整備について検討を進められるとよい。

スポーツ推進委員の数が少ないということだが、増やしていくことは重要だと考えている。

地域スポーツクラブとの連携については、どの地域でどのような活動をしているか、どんな人がいるかが、マップと同様に情報を整理していけるとよい。

宮崎委員 「まちとも」と連携したスポーツ推進は、重要な視点だと考えている。

スポーツ広場については、今後どのように整備し運用していくか、ハード、ソフト両面での検討が必要になると考えている。

坂井委員 町田市内の公園には、健康遊具は設置されているのか。

事務局 南多摩尾根幹線道路の高架下を公園に位置づけ、スポーツ利用を目的として整備を進めているが、そこで健康遊具の設置を検討している。今後も健康遊具の設置は進められていく流れがあるようである。

川崎会長 マップは紙だけでなくデジタルの利用も想定しておくべきだと考えている。利用のしやすさも考慮して作成していけるとよい。

「指標となる考え方」は 10 年後の状況を見据えてもうひと工夫できるとよい。どのように達成していくかもふまえて、アンケートの数値以外からも目標を検討していけるとよい。

「みる」という視点で議論を進めたい。「にぎわいの創出に繋がる施設整備」として案がでていますが、昨年のアンケートの結果をみると「町田市内の会場でスポーツ観戦した」という人は 11.5%であった。FC 町田ゼルビアが好調ということもあるが、このあたりをどのように推進していくか、検討が必要だと考えている。

山本委員 今週、総合体育館でパラバドミントン国際大会が開催されるが、その情報をどのくらいの市民が知っているかわからない。11.5%という数値を今後改善していくために、情報発信に力をいれていくことが重要だと考える。市の広報誌は市民の貴重な情報源となっているデータもあるが、そこでどれだけスポーツの情報を記載できるかが一つの課題かもしれない。

水野委員 千葉県では障害者スポーツの普及に力を入れていると聞く。車いすバスケットボールの観客動員数が多かったようだが、事前に選手が小学校で授業を行い、関心を喚起できたことが一つの要因だったようである。情報発信も重要だが、子どもの目に直接触れる、保護者の理解を得るといった視点も重要ではないか。FC 町田ゼルビアもこうした取組を行っているようなので、さらに力をいれていけるとよい。

川崎会長 大きな大会でもこうした広報活動は必要である。競技団体や体育協会、市の関連部署が連携していくことが重要である。

岡田委員 陸上競技場と FC 町田ゼルビアのこととなるが、ハイキング気分で観光を兼ねて実際に陸上競技場に足を運んでもらうことは重要だと考えている。また、パブリックビューイングなど、身近に情報にふれる機会は、今後も一層充実していけるとよい。

三村委員 パラバドミントン国際大会に家族と観戦に行ったが、きっかけはボランティアスタッフをしている知人であった。また、大相撲も家族で観戦に行った。そこで、総合体育館の外観や成瀬駅での看板や垂れ幕当の広報がまだ不足しているのではないかと感じた。

- 川崎会長 リオデジャネイロオリンピック・パラリンピックの時のパブリックビューイングはどのようなであったか。
- 事務局 鶴川駅前のポプリホールで実施した。
- 川崎会長 東京大会では実施を予定しているのか。
- 事務局 実施を検討している。
- 川崎会長 町田の駅前には大型映像あるが市が設置しているのか。
- 事務局 民間が設置している。
- 佐藤委員 デジタルサイネージの活用について、防災の観点もふまえ、充実していけるとよい。町田の中心は日ごろ 60 万人が行き交うということなので、まちの魅力向上という視点もふまえ、情報発信に力をいれていけるとよい。
- 川崎会長 商工会議所と連携した広告宣伝なども検討していけるとよい。
- 坂井委員 「みる」スポーツは、チームが強くなると応援したくなると思うので、オール町田でホームタウンのチームをサポートしていけるとよい。
- 先ほどの意見にもあったが、スポーツ観戦だけでなく、1日遊びに行きたくするような環境の整備も、陸上競技場や総合体育館では重要になると感じている。

(2) 基本目標4 スポーツを通じたまちづくりについて

事務局が資料1について説明を行った。

- 永吉委員 スポーツ情報の発信について、「スポーツ情報をきっかけにスポーツに関わった」という回答を増やすことが重要だと考えている。「みる」スポーツの推進とも関係するが、情報をきっかけに関心を喚起することで、実際に観戦につながっていく。また、情報提供について、議論もされていたとのことだが、ターゲットに適した方法を工夫していけるとよい。
- 「子どもたちがスポーツを楽しめる場所の情報提供」はマップのことになると思うが、場所だけでなく、どのような団体がどのような活動をしているかというソフト面の情報も加わると、より効果的なものになると考えている。
- 「町内会とか自治会ではスポーツという言葉を聞く機会が少ない」とあるが、たしかに、双方に距離があると感じている。しかし一方で、お祭りを機に協力関係ができることもある。公園を活用したイベント等をきっかけに、スポーツを通して地域を活性化していく視点で取組を進めていけるとよい。
- 川崎会長 スポーツを通じたまちづくりやシティプロモーションという視点でアイデアはあるか。
- 坂井委員 「広報まちだ」に、スポーツ情報を年に4回くらい別冊にして提供できるとよい。また、冷蔵庫に貼れるようなものとして、QRコードでインターネット上の情報にもアクセスできるような立て付けとできれば、スポーツ情報がより身近になると思う。
- 川崎会長 デジタル化は重要な視点だと思う。「広報まちだ」のデジタル版はあるのか。
- 事務局 市のホームページからPDF版もダウンロード可能である。
- 川崎会長 デジタル版の「広報まちだ」が広まれば、情報が拡散していく。
- 北川委員 「広報まちだ」で情報を取得する人は高齢の市民が多いと思う。子育て中の方と話をし

た際に子育て支援センターが発行している「子育てひろばカレンダー」を見ることが多いということを知った。情報発信の対象に合わせて庁内各課に協力を仰ぎ、各部署で発行している情報誌にスポーツの情報を掲載していくことも重要だと思う。

川崎会長 ターゲットを絞り、効果的な情報発信に取り組んでいけるとよい。

山本委員 町田市スポーツ施設の利用状況や大会・イベント予定は、市の体育協会で情報を把握・整理している。こういった情報を広報まちだと一緒に提供していけるとよい。

川崎会長 デジタル版はあるのか。

山本委員 体育協会のホームページで見られると思う。

施設の優先予約等の調整を7月頃から12月頃まで行っている。1月に決定し、3月か4月には発行できるように取り組んでいる。

川崎会長 既存の情報の活用方法を工夫していけるとよい。

オリンピック等の大規模国際大会もあり、町田で根付くとよいような種目もあるだろう。

水野委員 新たな種目に着目することもよいと思うが、今ある種目について分析して、面白い見方を見出していくということも重要だと思う。

川崎会長 大学との連携にはその点で新しい取組につながるかもしれない。

永吉委員 カメラの技術が向上していることやドローンを利用してできることもある。また、そういう分析ができる施設があればトレーニングの需要は高まるし、施設の価値は高まると思う。

川崎会長 「町田に行ったらこういうことができる」というような環境を整備していけるとシティプロモーションにもつながると思う。

情報発信については、インフルエンサーと呼ばれる人にサポーターとして協力を仰ぐことができれば効果的ではないか。また、スポーツ庁は全国的に地域スポーツコミッションの設置拡大を目標に掲げているが、町田市もそういった組織をつくり、継続的な情報発信に取り組むことでスポーツを通じたシティプロモーションにつなげていけるのではないか。

3. 事務局から

事務局がスポーツに関する市民意識調査アンケートについて説明を行った。

山本委員 回答者の属性ごとに分析できるとよい。

事務局 例年通り性別、年代、お住まいの地域で回答者の属性を把握し分析を進めていく。

次回のスポーツ推進審議会は11月19日（月）6時半から市庁舎10階の10-2会議室で開催する。

4. 閉会

以上